「循環社会づくり」地域からの挑戦

ようこそレインボープランへ

土は命のみなもと・「ともに」の世界を柱に

レインボープラン推進協議会

レインボープランのまち·長井
面積: 214.69 Km²
人口:30,554人
世帯数:9,679
人口密度:142人/Km²
産業構造:1次産業9.1% 2次産業44.4% 3次産業50.3%
農家戸数:1,629戸 内専業農家128戸
一般会計当初予算額 105億100万円 (19年度)
実質公社債比率26.7パーセント(08年ベース)
自主財源 26%

レインボープランとは
（ごみ処理事業ではありません）

1　同じ市内の「まち」と「むら」の連携によって、
台所から出る生ごみを「資源として活用」し、
豊かな暮らしと地域を育んでいこうとする
「地域づくり事業」です。

2　生産者と消費者がともに土にかかわり、
農と食に参加をする「循環の事業」です。

3　市民と行政が同じ地域の生活者として
対等の立場で地域づくりに参加する
「住民自治推進の事業」です。

なぜ生まれた（立ち上げの背景）

① 土が弱っている（農家） → 農業（土壌）の再生

② 食への不安（消費者） → 安全な食の提供

③ 焼却場の延命策（行政） → 堆肥化事業受入れ検討

リーダーの「農」へのこだわりと地域への愛情

女性グループの活躍

三つの理念

① 「地域循環」‥‥二つの循環

「土から生まれたものを土に戻す循環」

「まちとむらをつなぐ人の輪の循環」

② 「ともに（共創・協働）」

行政主導に住民が参加することではなく

住民と行政がともに議論し、決定し運営する

「住民自治」の原則をつらぬくこと

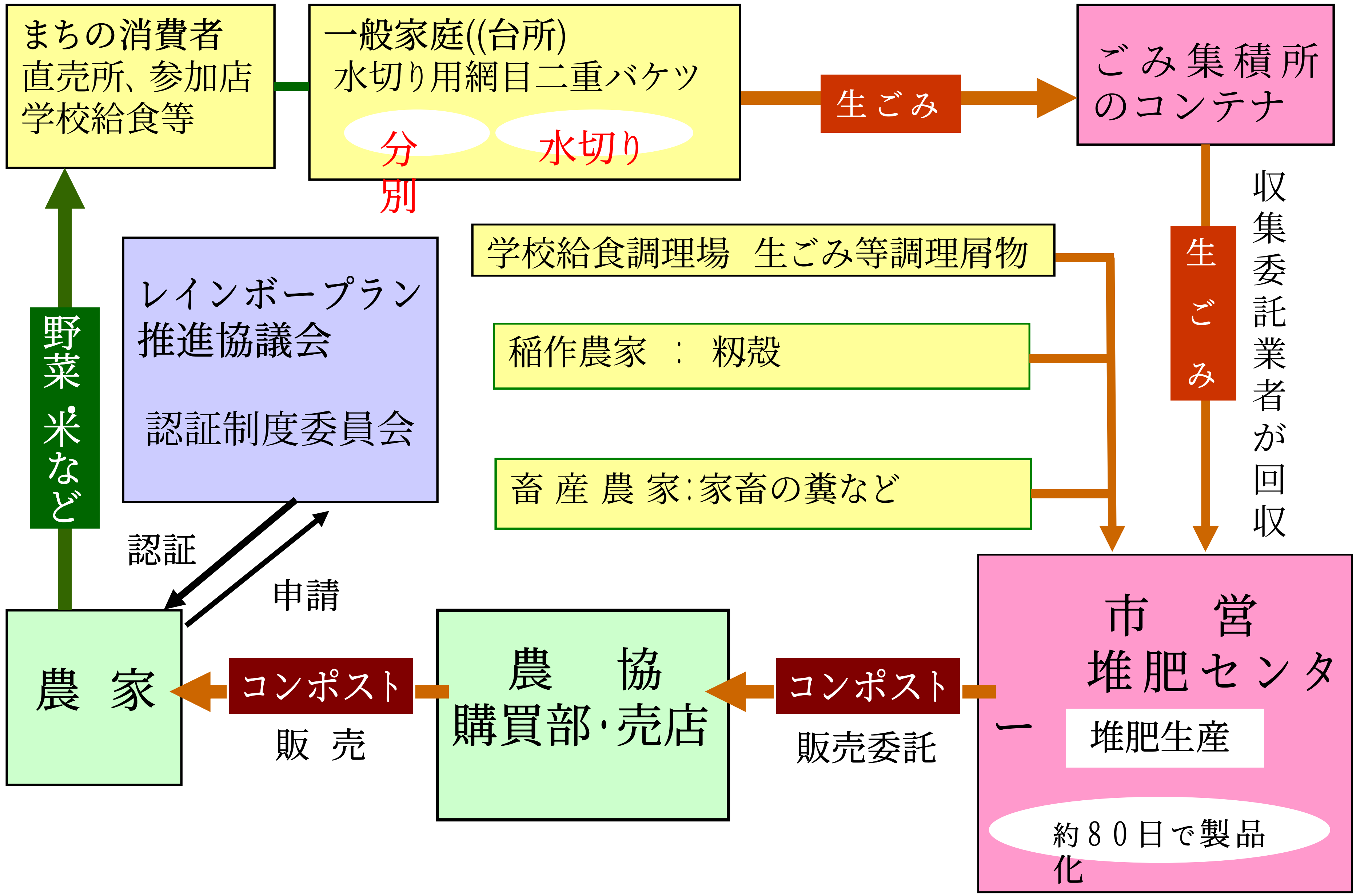
③ 「土はいのちのみなもと」

人間をはじめ、

生きもののの命を生み・育む「土」を甦らせ

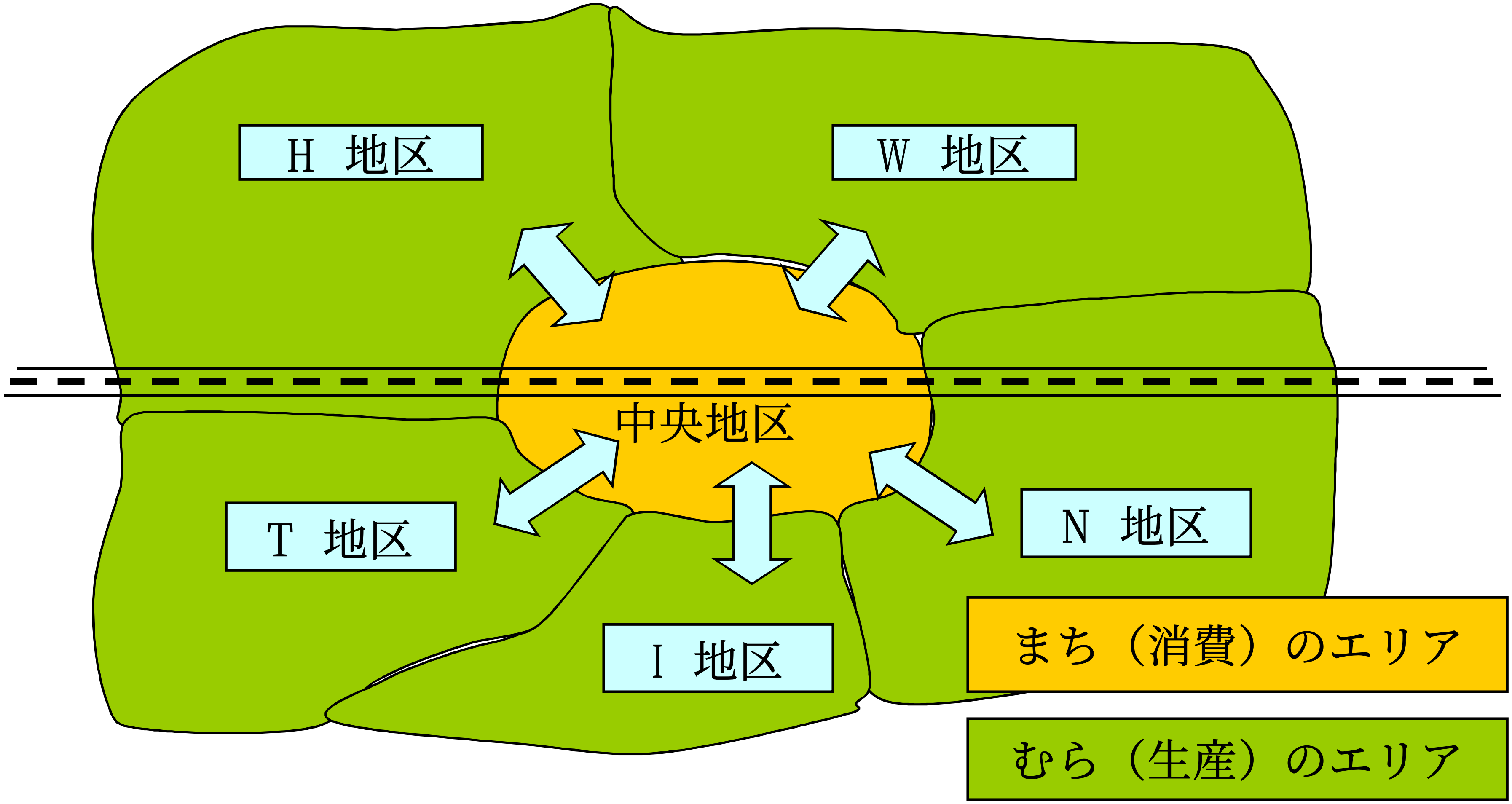
次の世代に引き継ぐ責務を共有すること

レインボープランのシステム



まちとむらが循環する

まちが堆肥の生産者となり土をつくり
むらが土を消費し、野菜などを生産



生ごみが健康な野菜などに

家庭で分別

収集所に集める

堆肥センターに運ぶ

センターで堆肥化

土に戻す

野菜など育つ

（4） 取り組みの成果と波及効果

(1) まちの5,000世帯の生ゴミが、 全量地域の田畑に戻っている。
(2) 環境保全型農業の意義を明確にした。
(3) まちづくりへの市民参加が促進された。
「レインボー・ともに」の世界が、「協働のまちづくり」のさきがけに。
(4) 市民の食と農業、まちとむらが近づいた。
(5) 環境学習、地域学習への貢献
(6) 異業種間の連携による商品づくり～まちづくり
(7) 環境保全へ与えた影響、
生活系可燃ゴミ、事業開始前と比較して３３％の減
(8) 海外への広がり（循環型社会）。
タイに「レインボープラン」という名の生ごみ堆肥化事業始まる
特に、途上国が強い関心。近年は韓国が強い関心を示している。

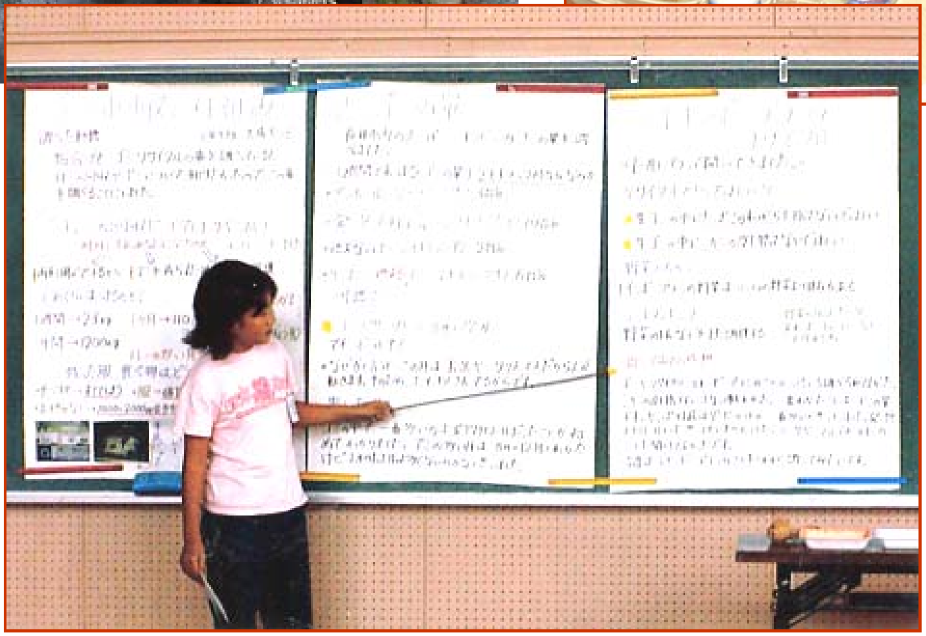
レインボープランの最終目的は

ともに支えあう地域づくり

消費者･生産者がともに
環境、農業、食糧、教育、福祉など
生活の身近な課題からまちづくりを考え
コミュニティの再生

「思いやりとやさしさの地域づくり」である

地域教育･食育教育に活かされて



2つのNPO法人発足

（ア）NPO法人・レインボープラン市民農場

- レインボープランの理念の実践
- 食の安全を消費者とともにつくり市民に供給
- 食農教育、アグリセラピーの活用など

(イ) NPO法人・レインボープラン市民市場「虹の駅」

- レインボープランの理念の実践
- レインボー認証野菜など地場産品の直売
  (安全野菜などの供給、地産地消の推進)
- 市民参加・交流拠点 (生産者・消費者との交流、
  視察者受入、情報の受発信)

ご清聴ありがとうございました。